7月28日（火曜日）「汚れた祭壇」

【新改訳 2017】　　マラキ書　1•1ー14

「あなたがたは、わたしの祭壇の上に汚れたパンをささげて、『どのようにして、私たちがあなたを汚しましたか』と言う。『主の食卓はさげすまれてもよい』とあなたがたは思っている。」（7節）

マラキは BC430-410 年ごろに活動した預言者です。彼の預言書は旧約聖書の最後に収められています。

ここでもまた、イスラエルの罪、特に祭司たちの罪が指摘されています。いけにえをささげる規定に反し、主の祭壇を汚すものでした。「汚れたパン」「欠陥のあるささげもの」「いたずらに火を点ずること」などで、主に対して悪を行い、いけにえの規定をうるさいものと言って軽蔑したのです。それは終末に世界の異邦人の間に見られる礼拝に比して忌むべきものでした（11、12節）。

私たちはどうでしょうか。まさか礼拝を不純なもの、無駄なものにしてしまってはいないでしょう。ぜひ「霊とまことをもって」の礼拝で祝福されますように。アーメン（ヨハネ 4•23、24）

～祈り～

主よ。あなたの前に祈る時、礼拝をささげる時、不純さや罪でその場を汚すことのないように助けてください。

【学びのために】

アロンの子たちの例（民数 3•4）エリの息子たちの例（Ⅰサムエル 2•22-36）参照。このような不幸な出来事の中でも、神の真の大祭司とその贖罪のみわざが進められていることに注意しましょう。